様式１

令和３年度に安芸高田市立中学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会

観点１　基礎・基本の定着 観点２　主体的に学習に取り組む工夫 観点３　内容の構成・配列・分量 観点４　内容の表現・表記 観点５　言語活動の充実

教科名	国語
第１推薦	３８　光村
第２推薦	２　東書

（国語）　各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主　た　る　特　徴
２ 東書	観点１	・教材の初めの「問いかけ」と、終わりの「てびき」の部分に目標を示している。 ・新出漢字は 371 字で、脚注に行数と音訓のみを、巻末にページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例を示している。 ・情報の扱い方に関する事項としては、各学年とも、情報活用に関する単元を設定し、１作品を掲載している。各学年とも、資料編に情報活用に係る教材を掲載している。著作権は１・２学年で扱っている。 ・読書単元は、「読書への招待」３回を設定し３作品を、資料編に２作品を掲載している。書籍紹介数 361 冊。
	観点２	・問題解決的な学習を実施するための工夫として、１学年「書く」では「調べて分かったことを伝えよう『食文化』のレポート」で、「食文化」について個人テーマを決め、情報をカードに記録して整理した後、調べてわかったことをレポートに書く活動を取り上げている。 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」を取り扱うページを上下２段に分け、上段に学習の流れ、下段に具体的な例などを示している。 ・３学年「観察・分析して論じよう『ポスター』の批評文」では、参考資料（広報誌）、批評の対象例（ポスター　数３）、観察・分析のメモ例、批評文の完成例（数２）、問題（新聞記事、ポスター　数３）が示されている。
	観点３	・「本編」と「基礎編」、「資料編」の３部からなる。 ・「本編」は、各学年７単元で構成している。 ・「言葉の特徴やきまり・情報の扱い方・漢字・読書」の３年間合計ページ数が 316 ページ、また、「書くこと」のページ数が 71 ページで比較的多い。
	観点４	・１学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、３教材 19 ページ掲載されている。図表等は３種類７点。 ・巻末の「学びを支える言葉の力」では、言葉の力を「論理的な言葉の力」「文学的な言葉の力」「対話的な言葉の力」の３項目６種類に分類し、学年に応じて系統的に 24 ページと折込４ページで示している。総ページ 112。
	観点５	・「話すこと・聞くこと」の学習では、全学年３単元ずつ設定してあり、全学年「聞く」「話す」「話し合う」の順番で構成されている。 ・考えを伝えるなどして話し合う活動の工夫では、「話し合いで理解を深めよう『グループディスカッション』」において、身の回りの良さについてグループで出し合い、分類することを通して共通の良さを見つけ、お互いの発言を結びつけ、グループの考えを適切な一言にまとめる活動が取り上げられている。 ・言語活動充実の手立てとして、資料編に「話すこと・書くこと題材例」や「発想・整理の方法」の解説がある。

発行者名	主たる観点	主　た　る　特　徴
１５ 三省堂	観点１	・教材の初めと、終わりの「学びの道しるべ」の部分に目標を示している。 ・新出漢字は、427 字で脚注に行数と本文中の読みを、教材末にページ数、音訓、用例を、巻末に「○年生で学ぶ漢字字典」としてページ数、音訓、中学で学ばなくてもよい音訓、部首、画数、筆順、用例を示している。 ・情報の扱い方に関する事項については、各学年とも、「情報を関係づける」という単元を設定し、資料を２つ掲載するとともに、各学年とも、資料編に「情報を活用する」とし「情報探しの方法」「引用と著作権」を掲載している。 ・読書単元「読みを深め合う」を設定し、詩と小説２作品を掲載し、関連して「ブッククラブ」などの読書活動を示している。資料編の前に「読書の広場」として古典作品を掲載している。書籍紹介数　285 冊
	観点２	・問題解決的な学習を実施するための工夫として、１学年「書く」では、レポート「調べたことを整理してわかりやすくまとめる」で、課題を身近なもの等から決め、情報カードに記録して整理した後、レポートの形式で書く活動を取り上げている。 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の多様な方法の説明が最初に示してある。 ・学習に必要な力が、「思考の方法」や「語彙を豊かに」で示されている。
	観点３	・「本編」と「資料編」の２部からなる。 ・「本編」は、１・２学年が９単元、３学年が８単元で構成されている。 ・「書くこと」の３年間合計ページ数が 71 ページで比較的多い。
	観点４	・１学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、３教材 18 ページ掲載されている。図表等は３種類８点。 ・巻末「読書の広場」では読み物教材が５編、29 ページと最もページ数が多い。「社会生活に生かす」では、メモの取り方など生活で使う具体例を 10 ページ示している。「学習用語辞典」として６ページ掲載している。総ページ 128
	観点５	・「話すこと・聞くこと」の学習では、全学年「話すこと・聞くこと」を３単元ずつ設定し、全学年１単元目は「グループディスカッション」を設定している。全学年、情報教材「複数の情報を関連づけて考えをまとめる」を設定し、テーマは全て別となっている。また、全学年「読書活動」で本に関して自分の考えを伝える活動を掲載している。 ・考えを伝えるなどして話し合う活動の工夫では、各学年の第１単元の「グループディスカッション『話題や展開にそって話し合いをつなげる』」において、「話し合いのこつ」を意識してグループで話し合ったり観察し合ったりし、効果的だった「話し合いのこつ」について話し合いを振り返る学習活動が取り上げられている。 ・言語活動充実の手立てとして、資料編で、思考の方法について図を使って解説している。

発行者名	主たる観点	主　た　る　特　徴
１７ 教出	観点１	・単元の扉に、課題を考えるためのキーワードと単元名を示している。 ・新出漢字は 396 字で、新出漢字が出た行の脚注に漢字のみを示し、本文中にルビをふっている。また、教材末にページ数、音訓、用例を、巻末に「○年で学習した漢字」としてページ数、音訓、中学校で学ばない読み、総画数、部首、部首を除いた画数、筆順、用例を示している。 ・情報の扱い方に関する事項については、各学年とも、「メディアと表現」を設定し、１学年は４つ、２・３学年は３つ掲載するとともに、「メディアと表現」教材「学びナビ」の中で、学習を踏まえた解説を加え、情報の扱い方を説明している。著作権は２学年のみ扱っている。 ・読書単元「読書への招待」２回を設定して２作品を掲載し、学習の手引きにポップづくりなど読書活動を示し、巻末「言葉の自習室」に全学年で古典を含む４作品を掲載している。書籍紹介数　274 冊
	観点２	・問題解決的な学習を実施するための工夫として、１学年「書く」では、「材料を整理して案内文を書く」で、題材を決め、必要な情報を集め、整理した後、相手や目的を意識しながら案内文を書く活動を取り上げている。 ・「学びナビ」「学習活動」「完成例」を、各１ページで構成されている。 ・「学習ナビ」は上段で示した情報を整理する手順を下段で図解している。 ・「学習活動」は上段に学習の流れ、下段に学習のヒントを示している。
	観点３	・「本編」と「巻末付録」の２部からなる。 ・「本編」は、１・２学年が９単元、３学年が８単元で構成している。 ・　ＳＤＧｓを国語科の視点で教材化した教材「持続可能な未来を創るために」を新設している。 ・「読むこと」の３年間合計ページ数が 404 ページで比較的多い。
	観点４	・１学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、４教材 28 ページ掲載されている。図表等は３種類 21 点。 ・巻末の「学習に必要な用語（索引）」が２ページある。また、「理解に役立つ言葉」「表現に役立つ言葉」は、折込４ページある。読書は４編 12 ページ。また、「近代文学史年表」を３ページで示している。総ページ 84。
	観点５	・「話すこと・聞くこと」の学習では、「話すこと・聞くこと」を１学年４単元、２・３学年５単元設定してある。また、全学年「持続可能な未来を創るために」という「書く」と「読む」の複合単元を設定し、考えるテーマを学年毎に変えている。各単元に「ここが大事」とポイントを掲載している。 ・考えを伝えるなどして話し合う活動の工夫では、「発言を結びつけて話し合う」において、話題を意識し、他者の意見と結びつけた発言をし、総括しながら話し合っていく学習活動が取り上げられている。 ・言語活動充実の手立てとして、「言葉の自習室」で、アイデアの出し方、レポートの書き方などを説明している。

発行者名	主たる観点	主　た　る　特　徴
３８ 光村	観点１	・教材の初めと、終わりに目標を示している。 ・新出漢字は 390 字で、脚注に行数と本文中の読みを、教材末にページ数、音訓を、巻末に「○年生で学習した漢字」としてページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例、慣用句・ことわざ・四字熟語などを示している。 ・情報の扱い方に関する事項については、各学年とも、「情報社会を生きる」を設定し、教材を掲載するとともに、資料編の中に、情報整理の方法として、「『情報処理のレッスン』一覧」、情報と情報の関係を「『思考のレッスン』一覧」として掲載している。著作権は１・３学年で扱っている。 ・読書単元「読書生活を豊かに」「読書に親しむ」を設定して２作品を掲載し、読んだ本の紹介などの読書活動を示している。書籍紹介数　277 冊
	観点２	・問題解決的な学習を実施するための工夫として、１学年「書く」では、「根拠を示して説明しよう　資料を引用してレポートを書く」で、中学生の生活から課題を決め、実態調査やアンケート等の結果を整理した後、課題に関連する資料を引用しながらレポートを書く活動を取り上げている。 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページを上下２段にわけ、上段に学習の流れ、下段に具体的な例を示している。 ・見開き１ページで学習の流れの一覧を示し、「生かす」では、関連する既習事項を、「つなぐ」では、日常生活、学校生活、将来の３つの視点で生かせる場の具体的な例を示している。 ・「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」では、題材の例（広告）、分析例、批評文の例が示されている。
	観点３	・「本編」と「巻末資料」の２部からなる。 ・「本編」は、各学年８単元で構成している。 ・「伝統的な言語文化」の３年間合計ページ数が 83 ページで比較的多い。
	観点４	・１学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、５教材 28 ページ掲載されている。図表等は４種類 22 点。 ・巻末には、学習の窓として「文学的な文章を読むために」や「思考のレッスン」、「情報整理のレッスン」など基本的な学習用語がまとめられている。（７＋折込４）総ページ 98。
	観点５	・「話すこと・聞くこと」の学習では、全学年「話すこと・聞くこと」が６単元ずつ設定してある。また、全学年、最後の単元は「○○を振り返ろう」と「書く」と「読む」の複合単元を設定している。「学習の窓」で学習をとおして身に付ける力のポイントを箇条書きで示している。 ・考えを伝えるなどして話し合う活動の工夫では、「話題や展開を捉えて話し合おう　グループディスカッションをする」として、話題を決め、自分の考えを付箋に書き根拠を考え、司会と書記を決めた後、模造紙や付箋を使って意見をまとめて全体で発表する活動が取り上げられている。 ・言語活動充実の手立てとして、資料編で、表現活動のテーマ例や情報整理の方法などを解説している。